



食支援を通して尊厳を考える 地域円卓会議

本当に元気になる沖縄県における食支援とは何か

実施報告書

日 時： 2024年8月4日（日）13:00-16:00（受付開始12:30-）
場 所： なは市民活動支援センター 会議室1（沖縄県那覇市銘苅2丁目3-1）
主 催： 公益財団法人みらいファンド沖縄
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】食支援を通して尊厳を考える地域円卓会議



- 日 時：2024年8月4日（日）13:00-16:00
- 場 所：なは市民活動支援センター 会議室1
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 参加者数：24名（NPO・市民団体、福祉・医療機関等）
- 主 催：公益財団法人みらいファンド沖縄
- 協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく



論点提供

石原 輝（公益財団法人みらいファンド沖縄 プログラムオフィサー）

本当に元気になる沖縄県における食支援とは何か

物価高騰により生活が苦しいと感じる世帯は増加し、その中で特に食料品の高騰が家計を圧迫しています。そのため食支援のニーズは高まり、県内ではたくさんの団体がさまざまな取り組みを行っています。今回の円卓会議では、一人ひとりが本当に元気になって、次のステップに踏み出せる食支援とは何かを議論します。

センターメンバー



奥平 智子
NPO 法人
フードバンク
セカンド
ハーベスト沖縄
代表理事



新垣 聡
新広堂株式会社
代表取締役



井上 満男
沖縄県
こども未来部
こども家庭課
課長



大城 喜江子
一般社団法人
まちづくり
うらそえ
代表



濱里 正史
公益財団法人
沖縄県労働者
福祉基金協会
沖縄県就職・生活
支援パーソナル
サポートセンター
北部 所長



本村 真
琉球大学
地域共創研究科
研究科長
こども支援
政策研究所
理事長

食支援を通して 尊厳を考える

2024. 8. 4 (日) ①

13:00 ~ 16:00

◎本は市民活動支援センター
会室1

地域円卓会議

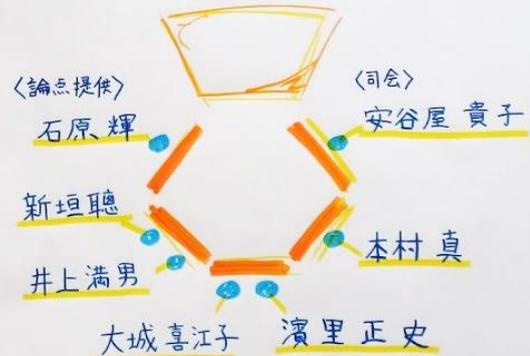
146回目

地域の困りごとを
社会課題として共有
大感です

本当に元気になる

沖縄県における

食支援とは何か



(オンライン)
● 奥平智子

主催 公益財団法人 みらいファンド沖縄

協力 NPO法人 まちなか研究所 わくわく

論点提供

石原輝

食支援を通して尊厳を考える

多様な考案で実現する

支援される側の尊厳を守る

新たな食支援事業

グレゾーンにもソーチし、
被支援者から担い手にも
なり得る有償型パントリー

食品をうけてくれる
施設や場所

休眠預金
の活用

〈背景〉

物価高、可処分所得の減

⇒ レジャー、子育て環境のよゆうなくなっている

子どもの体験のキーン

「グレゾーン」の厚みが増している

食品キツの減、食のニーズ広がり

余ったものを循環させることの限界

〈打ち手〉

ニーズに対応できる

量の食品を
確保し、行き
わたらせる
しくみの充実

「グレゾーン」
の実態把握

支援される側の
尊厳が守られる
支援の模索と
実践

ただ空腹を満たすことだけでなく、

一人ひとりが元気になって、

次のステップに踏み出せる食支援とは？

奥平 智子

NPO法人フードバンクセカンドハート沖縄 代表理事

2007年 沖縄でフードバンク活動をひとりで開始
 食品企業との関係づくり ⇒ 100社以上と連携
 福祉・教育行政を通じて、食品を提供

160トン/年 ⇒ 今年は半分以上になるみこみ

ニーズには足りない現状

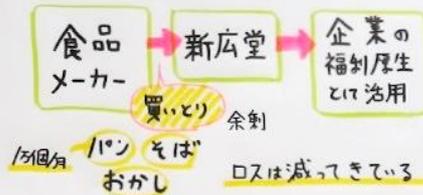
コロナ ⇒ 食あまっていた(企業)
 物価高 ⇒ 企業の食品ロス対策のどか
 米がとれていない
 余じょう食品が減っている

- ▶ 都会の食品を全国へ(流通)
 - ▶ 沖縄 ⇒ 海にがこまれて(コストがかかる)
 - ▶ 米どころから沖縄へ
 - ▶ 管理 → そうにねむっているものも
- 購入 助成金の活用

新垣 聡

③

2022.6 設立 フードロスの削減



フードバンクとの連携

毎日、広範囲に動いている → はこぶことでの連携
 (豊見城〜石川)
 行きわたらせるための1つの方策

井上 満男

沖縄県こども未来部 こども家庭課

H27 沖縄のこどもの貧困率 29.9% (全国13.9%)

H28 貧困対策元年と位置づけ施策推進

成果

子どもの居場所 H28 R.2 R5
 → 91ヶ所 ▷ 145ヶ所 ▷ 190ヶ所
 子ども食堂 → 30 ▷ 65 ▷ 126

課題 持続的な運営 (E・M・C)

コロナによる生活に窮する子育て家庭の増

学校の休業 ⇒ 給食を食べない 居場所の休止

おきなわこども未来ラングサポート開始 (R.2.10~)

大城 喜江子

④

一般社団法人おきなわこども未来

やんちゃでかわい...子どもたち
 高校行きた... → 学習支援 → ごはん食べないことわかる

学習支援と食事提供 食支援へ
 しみなで見守る 遊ばせよう
 明るい職場環境 笑顔と笑い声

99ヶ所の地域の皆さんと連携・協働

五者会議 (地域三要素対協)

森の子児童センター、こども園、学童クラブ、おきなわこども未来SSW、小学校

守秘義務・情報の管理・人権の尊重

- ▶ 問題・課題の解決が早い → 地域住民の意識の変化
- ▶ 気になる子への声かけ

濱里正史

公益財団法人 沖縄県労働者福祉基金協会
 沖縄県就職・生活支援 パーソナルサポートセンター 北部 所長

働く ⇒ 社会に参加する → 社会に居場所があること

住・食・衣・物・物・通信

まずけずるのが 食費 通信がせいぞ

物価高 ⇒ 食の質が下がっている

やる気スイッチ ⇒ ナン 人によって異なる

人とかかわる・信頼

法則制にあてはめることはむずかしい

1対1のかかわり

⇒ 社会とのかかわりへ

本村真

⑤

琉球大学 地域共創研究科 研究科長

元気に日々を過ごす

生理的なエネルギー カロリー / 睡眠

心理的なエネルギー

チャレンジできる 踏ん張れる 必要を助けを求められる 自分を大切にできる

⇒ 自己肯定行動の維持

↓
 能動的に食料支援を「活用」できる

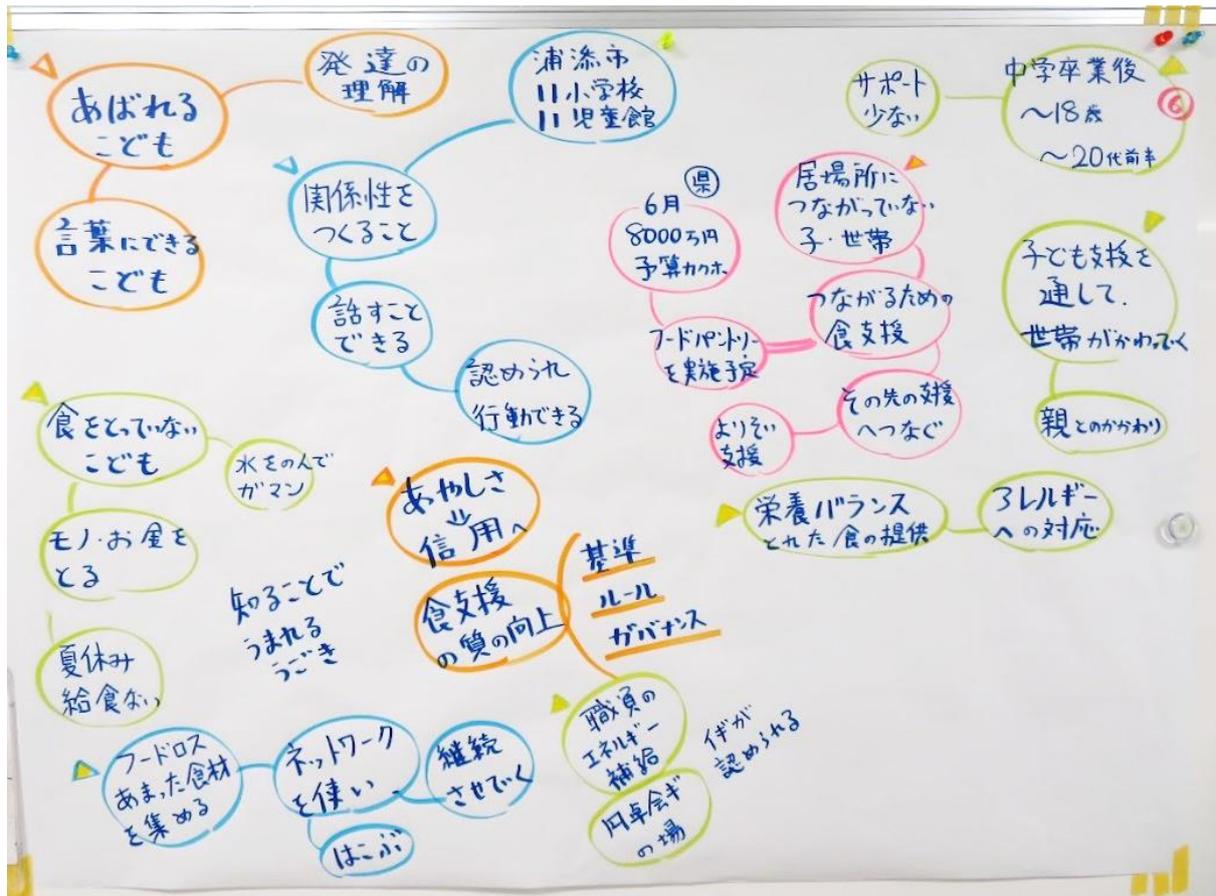
何事にも興味がある 動きが早い 困っても何もしない 自分とやりあう

↓
 「つながる」環境が不可欠

受動的に食料支援を「受ける」

心理的なエネルギー補給のための4つの体験

- ① 気持ちなどを受け止めてもらう体験
- ② 自分が関心をもっていることについて、気にかかっている体験
- ③ 身体が喜ぶことを体験する
- ④ 達成体験、「できた!」の瞬間
 - ①~③を提供し、一目おかれる存在になる



石原

食支援は手段 → その先、どうつながれるか
信頼関係あってこそ

食をいっしょに買い、スキルを伝える

フードバンク → 食材をわたすとき、料理のし方を一言伝えて
生活でどう使われるかを想像して。

行政・制度につながらないことが、尊厳になっていること
支援する側・される側、ともに意識を **もてる**
カーリ-バ-スだけを考えない

安谷屋

経験の共有 買い物いっしょに行くなど

他の支援者からヒントもらう
ノウハウを共有していく。

■今後のアプローチの方向性（提言）

- 食支援はツールであり、目的ではない。①食支援を通して誰が何をできるようになることを目指すのか、②それを誰が見通すのか、③①と②を生かせる食支援の仕組みをどうデザインするのかを考えていくことが必要。現状、団体個々の活動が沖縄県における食支援のベースになっている状態を、行政を含めた様々なプレイヤーが連携し、役割分担をし直すことを目指したい。
- 「本当に元気になる」ために何が満たされると良いかは「謎」である。例えば県内の支援の現場では、困窮により最初に削るのが食費で最後が通信（スマートフォン）という実情が共有された。属性や状態によって集合的に捉えず、一人ひとりを見ることの大切さを見失わない食支援のあり方を追求していくことが、支援される側の尊厳を守ることにつながることを確認できた。また、「本当に元気になる」ためには「生理的エネルギー」と「心理的エネルギー」の2つが満たされているかという指標をその際の手がかりとする。
- 沖縄県内での食品寄付の量は減っている。年に160tあったものが直近の年度では半減する見込み。ニーズに見合った量ではないことは想像できるが、必要な総量にどの程度足りていないのか、県全体での把握が必要。そのためにみらいファンド沖縄は実施中の事業を通じて部分的な把握を通して全体量を推計し、不足分を誰がどう担保するかの議論につなげる。

■参加者によるサブセッション

本当に元気になる沖縄県における食支援とは何か

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- 心理的エネルギーも重視して進めたいと思った！食支援をしていると、スタッフが疲弊することも…そこをどうフォローできるか？
- 行政事業とのすみ分けは？…量的支援、人のバッティング、どこがリーダーシップをとる？
- “尊敬”→個人情報？かなりグレーでもある…。どのように進めるのが良い？よりよい支援のためにも！
- 様々な食支援がある。軸となるものとなつなければいいが、行政ではつなげきれないところも…。
- 要対協、その情報をどう活かすか
- 災害備蓄食、それをもらって元気になるのか？もらったことで自分が大事にされていると感じること。単なるカロリーベースじゃないものを行政としてどこまでできるか？

②

「休眠預金・食支援をはじめの視察」

新聞の世界

- こういうの世界もあるんだ、びっくり、知らなかった
元コテージ宿泊業
所得のちがいによる自然体験の数
<都市部>
- 共同生活体験の不足
寝食暮らしを共にする大切さ
エネルギーの補給に必要
↳自らが、欠けてる、うみ出せるようになれば
誰でも何でも支援をしている
子どもの頃～職場の時にできてたら良かった

たなと思うことが多い

早めに食べてなんになる？

やっていることが対処療法

- もうちょっとはやいときに支援・体験ができれば
- 背景を理解しながらも
根本をかえていくアプローチ
選択をかえていくかわわり
かわるきっかけは関係？ができてから

③

- ・ 「つながる」ための支援
- ・ 「フードロス対策」としての限界？
えらべること+品ぞろえも必要
→そもそもそれは「食支援」の仕組みと云うのか？
「地域で見守ろう」という部分では有効
- ・ 「適正な支援量」とは？団体で変わるし共通認識もない。“これで1食分だと思ってるんですか？”
- ・ つきつめると生活保ゴの補そく率の話…
→ただし、そのあとは国の制度しだい(車とか)
- ・ 家庭によって支援の必要量が変わる
少いで助かる人もいれば 子育て的・いのちの支援・・・色々なパターン
- ・ 色々な団体いる…調整は？
中間支援のプラットフォームは必要
パントリーで集約できるなら子ども食堂は交流…など

④

- ・ 野菜生活ができる循環
- ・ 自分で作れるようになる

- ・健康的な食事
 - 自分が好きなたべもの
 - 人間的に健康的なたべもの
- ・継続すること(仕組みづくり)
 - しえんする側も気持ち良くできる
 - というと上下かできる
 - ○ヶ月に1回のなしえんでは続かない、単発ではない

⑤

「本当に元気になる沖縄県の食支援とは？」

学校給食

- ・アレルギー対応していない
 - 弁当を持っていく
 - アレルギーゆいまーの会→相談場所創設
- ★県内のこどもたち
- ・食の機会支援
- ・体験の機会
 - 様々な人々のアレルギーの方への対応・実態調査
 - ⇒現状
- ・自己判断
- ・利用をことわる
 - (仮せつ)
 - まだ支援は充分にいきわたっていない
 - ⇒調査4ステップ
 - ①できてる、できてない？
 - ②対応できる日がある、周知
 - 食品表示法(学習)スキル

⑥

「孤食」食支援で何を届ける？

要支援に声かける。

食事風景 役割を与える

口腔支援って？

ゆるい食支援＝色んな人が来たらどうしよう

…？けど積極的なことはいいこと

⑦

依存にならないようにするには

自律につながるには

エネルギーに

ファミサポや学校

ミニ要対協が有効

守秘義務

働ける段階ではない

ハローワークより知的↑

一緒に食事時間大事

花植え作業

幸せな人たち

小5の子に気付かい

ここの部分好きにしてい

当事者の気付き大きい

調理実習

安くて栄養があつて

やる気スイッチ

一人一人の出番

ありがとう 役割り

プログラムあり

個に合わせて

人手不足

企業がとる

相談者減る

ジョブサポーター的な役割が必要

あと一歩

ミニ要対協

毎月

貧困の定義

寝食をともにする

早い時期の支援・体験

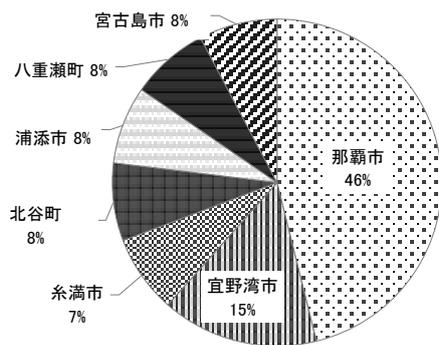
関係をつくる

食支援を通して尊厳を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

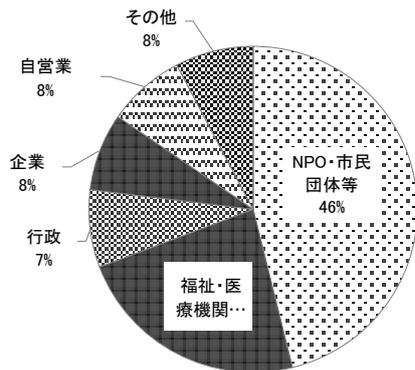
◆概要

- ・日時：2024年8月4日（日）13:00-16:00
- ・場所：なは市民活動支援センター 会議室1
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：24名（NPO・市民団体、福祉・医療機関等）
（アンケート回収14名、回収率58%）

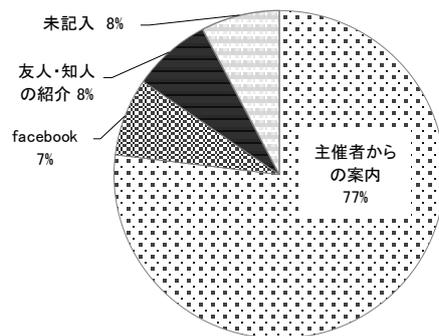
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.5（5点中）

満足度	人数
5. 満足	8名
4. 概ね満足	3名
3. 普通	2名
2. あまり満足していない	0名
1. 不満足	0名
未記入	1名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 「食支援」という言葉だけでは想像できない取組や課題を知るコトができてとても勉強になりました。
- ・ 普段は、なかなか聞く事のできない内容のお話をたくさん聞けました。「私は、この事業では支援者の立場ではありますが、アレルギーの子どもを持つ、子育て世代の支援を受ける側でもあるので、こんなにたくさんの方たちが、日々活動し、世の中を変えていこうとされている事にとっても嬉しく思いました。
- ・ 「様々なアプローチからの食支援が学べました。自分の支援している人達や関わる人達へ、更にまた幅の厚みが出る様参考にさせていただきます。
- ・ 食支援に関わる方々、興味のある方の話がきけた。
- ・ 居場所として、何を優先に取り組んでいくのか改めて考えさせられました。
- ・ 同じ想いを持つ多様な立ち場の方々が一同に会することで今後の連携のアイデアがいくつも浮かびました。共有したいことがたくさんあります。共創につながります。
- ・ 今後、行政として事業を実施していくうえでの考え方のベースを作ることができた。
- ・ 着席者の方々の経験や立場など様々なお話

をうかがい、見方や他団体との連携する為の仕組みづくり、現状についても知ることができ、どう自身の事業に落とし込んでいくことが食支援の尊厳につながっていくのかを考えていきたい。

(4. 概ね満足)

- ・ テーマが広く深いので、同様のテーマで回を重ねてほしい。仕組みづくりと、実際の支援を切り分けてギロンした方が良いと感じた。
- ・ 幅広いディスカッションだったと思います。
- ・ 食支援や貧困に対する、視点は増えた。知らない取り組みや団体の情報もあったので、インプットとして良かった。

(3. 普通)

- ・ サブセッションが短い。
- ・ 少し情報量が多く、うまく内容をまとめきれなかった。興味が少しある人くらいだと参加はむずかしそう。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ サブセッションで「口腔ケア」の話ができたり、食文化についてのトピックで話すことができたのが印象に残っています。
- ・ 受動的に支援を受けるから能動的に支援を受けるというスタートラインに立てられるように、支援する側は工夫する。支援する側も元気で、余裕がある状態を保つことの大切さ。
- ・ 本村先生のエネルギーのお話や、支援する側の質の向上、ぜひ広まって欲しいです。
- ・ 依存からの開ほう。
- ・ 本村先生のお話、納得。2つのエネルギーの補求の確認、共感→尊敬を含めたよりよい関係性がきずいていけるようにしたいです。
- ・ 5者ミニ要対協。
- ・ 社会の一員として参加することが尊厳を守

ることにつながる。

- ・ 余剰品が良くも悪くも減っている話は、印象に残った。衣食住、移動、通信。
- ・ 社会に参加することの重要性。ただ食を支援するだけでなく、対象者の方が食を通じて社会とつながれるように仕組みづくりを考えていく必要があると感じました。

(写真) 会場の様子



・「つながる」ための支援
 ・「フードロス対策」としての限界?
 文らべること+品どつえも必要
 ↳ともともとれは「食支援」の ^{いちがう} 議論
 仕組みと言えるのか?
 「地域で見守ろう」という部分では ~~無~~有効
 ・「適正な支援量」とは? 団体が変わると
 共通認識もない。こぞ1食分を
 思ってるのか?

・つぎめると生活保の補と幸の言...
 ↳ただ、~~こ~~あとは国の制度したい(車か)
 ・家庭によって支援の必要量が変わる
 ・~~つ~~で助かる人もいれど
 子育て的・いのちの支援... 色んな ¹¹⁰⁹⁻¹
 ・色んな団体いる... 調整は?
 中間支援のプラットフォームは1つお
 110+11で集約できたら
 子ども食堂は交流... たび

・野菜生活ができるしゆかん。
 ・自分で作るよつたなる
 ・健康的な食事
 |
 |— 自分が好きなたバモの
 |— 人間的に健康的なE1モの
 |
 | 継承系あること (仕組み作り)
 |
 |— しえんある側も食を良くできる。
 |— ~~~~
 |— いろいろ ~~な~~ 上下ができる
 |
 |— OYPAに1回のみしえん
 |— 2つ続かす。単発ではない

「本当に元気になさ
沖縄県の食支援とは？」

学校給食
・アレルギー対応
（アレルギー
食料を除外）



相談場所
創設

食の
コーディネート

・食の機会
支援

・体験的食育

・おきん研
+おきん研への
アレルギーの方への
対応: 食支援

調査
42件

① どこまで対応可能?

② 対応可能な
おきん研の
おきん研

食の表示法
(おきん研)

(おきん研)
(おきん研)
おきん研
おきん研

現状!

おきん研
おきん研
おきん研

「孤食」 食支援で何を届ける? 食支援に
声かけ

食事風景
役割を与える

口腔支援、?

ゆるい
食支援 = 「おきん研が」
来たら
どうしよう? ..?
これは積極的な
ことはいいいこと

森の子 /

依存: 家族のようには
すまないと。
自伴: 家族のようには。
エピソード。

PS

フジの学校
必要対応の有知
守秋まで

個別支援計画の進捗
10-11-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29-30-31
知的 時間不足

人手不足

3

企業との

相談者減

シフト制への移行

役割の分担

次の一歩

必要対応の枠

毎月一回

貧困の定義

花魁の作業

2

専任の人材
小5の子に気付か...
この部分 対応: 12...
当事者への対応

調理実習
毎に実習の...
で気づく...
一人一人の...
あつた... 役割

70%の...
個に合わせた

寝食と休息

早い時期の支援

体系

関係の...